



生徒から学ぶこと

島根教職員組合 小林 裕介

昨年、島根県で3校目になる義務教育学校へ異動しました。1～9年生までが生活する学校はなかなか新鮮で、刺激的でした。しかし、開校2年目ということもあり、校内の体制もまだ整っておらず、運営上の問題が山積みでした。そんな中で9年生の担任と児童生徒会担当を任せられ、児童生徒会運営や学校行事(特に体育祭)の運営の形をつくるのが大きな仕事となりました。

4月は年間の流れがわからなかったのだから苦勞しました。これまでの経験と少ない資料を頼りに様々な計画を立てます。この流れで上手くいくのかすら分からない、役員の子たちさえも見通しがもてていない、そんな状態でした。そんな中でまずは児童生徒総会を全員参加型の総会に変えるという挑戦をしました。児童生徒総会の新しい形を提案し、何とか成功させることができました。新しい企画を成功させた子どもたちは、自信をつけたのか少しずつ色々な企画をつくるできるようになりました。体育祭のシーズンが近づくと、児童生徒会役員はどんどん忙しくなります。通常の活動にプラスして、体育祭の運営の仕事が入ってくるからです。しかも、5～9年生までで行う初めての体育祭の運営です。

会議は毎日紛糾しました。「ああでもない」「こうでもない」と最初は意見を出しあっていたのですが、だんだん「無理だって」「できないって」という言葉が飛び交うようになりました。そんな時、ある生徒が言った一言に私は衝撃を受けました。

「できない理由を考えるんじゃなくて、どうやったら実現できるかを考えようよ。」

この言葉は、教員としての自分の在り方を考えさせてくれるものでした。いつのまにか、生徒たちの提案に対して「できない理由」を考えていた自分に気づかされました。よく考えてみると、「できない理由」を探す努力って不毛ですよ。何も生み出さないので。それに、やり方次第でできることもあるのではないかな、そんな風に考えると新しいアイデアも生まれます。実際にそこから生まれた新しいアイデアをベースに本校らしい体育祭の形をつくることができました。「できない理由を考えるんじゃなくて、どうやったら実現できるかを考えよう。」今でも新しい企画を考える時にはこの言葉を忘れないようにしています。生徒から学ばせてもらった私の宝物の言葉です。